

蘭牟田池ラムサール条約

湿地登録2周年



2005(平成17)年11月8日に条約湿地に登録された蘭牟田池は、周囲を標高450～500m前後の外輪山に囲まれた火口湖です。火口湖とは、火山の噴火で陥没した部分に雨水などがたまってできた湖で、カルデラ湖とも呼ばれます。この浮島は、イネ科やカヤツリグサ科の植物が枯れて完全に腐らずに堆積し、炭化したものです。北方の寒冷な高層湿原ではしばしば見られますが、低層湿原では極めて珍しいことから「泥炭形成植物群落」として国の天然記念物に指定されています。

記念フェスティバルとマルシェを
合同開催!



希少なベッコウトンボ

池の西側にある湿原は、絶滅が危惧されるベッコウトンボをはじめ、たくさん のトンボの産卵や羽化の場として、とても貴重な場所になっています。

ベッコウトンボは、体や羽の色がその名のとおりベッコウ色であることが特徴です。しかし、ベッコウ色なのはヤゴから羽化してトンボとなつた未熟な時期だけで、成熟すると黒色になります。

蘭牟田池のベッコウトンボは4月中旬頃から6月下旬頃に見られますが、最も多く見られるのは4月下旬から5月上旬です。



▲ Google マップ

標高：295m
水深：約 3.5m(最大)
面積：約 60ha

ラムサール条約とは

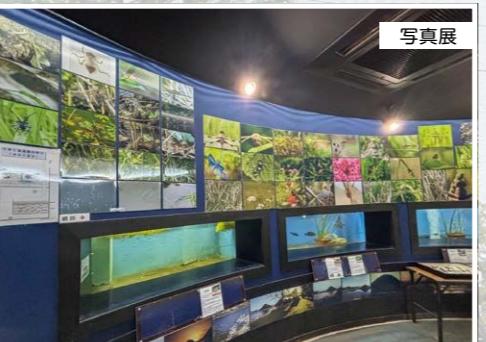
正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。1971(昭和46)年にイランのカスピ海湖畔にあるラムサールという町で採択されたことから、「ラムサール条約」と呼ばれています。

現在は水鳥の生息地だけでなく、広く生態系にとって重要な湿地を保全するための国際条約となっています。また、湿地の保全だけでなく、世界的に認知された湿地を上手に活用していくこうという「賢明な利用(ワイズユース)」も提唱されています。

湖と山が織りなす 四季折々の自然美



ぐりーとつんも遊びに来たよ



写真展



アキアイム 生態環境教育施設



たくさんのキッチンカーや出店が集まる



ステージ演奏



11/9

